

# やまがた地球家族

YAMAGATA GLOBAL FAMILY



Wikimedia Commons : Champa

『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』機関誌 VOL.11

## 【グローバル人材育成と JICA ボランティア活用を考えるフォーラム】報告

2012年11月19日、庄内町・響ホールで【グローバル人材育成と JICA ボランティア活用を考えるフォーラム】が開催されました。地元・庄内の自治体や企業、団体などから20数名がご参加。活発な質疑や意見交換が交わされ、有意義な集いになりました。

### ■ 「現職参加」について

(JICA 東北市民参加協力課・内島課長)

・企業から派遣された皆さんに協力隊員として活動して頂く制度。国内市場が縮小する中、新興国など海外への展開に人材育成が求められている。途上国で一人で生活することを通して、生活力や企画力、創意工夫力が身につく。

・JICA は先進国以外の世界の半分、新興国や途上国を中心に100近く事務所を持っている。足場として活用していただきたい。

・派遣期間中の収入補填制度がある。派遣期間についても柔軟に対応できる。

### ■ 山形県内企業の国際化について

(JETRO 山形貿易センター所長・鈴木孝平氏)

・スイスなどの小国に学べ！「海外なくしては自国の繁栄はない」という姿勢で、一人あたりのGDPは今もトップ3を維持。日本は20位に後退。海外に対する取り組みで差がついた。

・「海外で収益を上げて、日本に送金できる企業」が生き残っている。出る国際化、来る国際化。

・県内の中小企業でも製造業だけでなく、サービス業・農林水産物の輸出などに国際化の動きが加速している。共通の悩みは人材不足。社員や息子を海外に送ったり、JICA ボランティア経験者を採用したり、山形大学などへの留学生を短期契約したりする企業も増えてきた。企業にとって、人づくりに力を注ぐ時期にきている。

(p.2 帰国報告へ続く)

2011年度のエッセイコンテストで高校の部で優秀賞を受賞した武田さんが、フィジーでの海外研修に参加した際のレポートを全文掲載します。

### 「笑顔に国境などない。」

海外  
研修報告

武田彩花さん  
(東根工業高2年)



英語はどうしても苦手だ。ましてや、フィジー語やヒンドゥー語が話せる訳がない。

そんな不安な面持ちで、私はこのフィジーの地に立っていた。一緒に行った研修生たちは、まるで外国人かのように悠長に英語で会話をしている。楽しそう。私もあんな風に英語が話せていたら現地の人と一緒に笑い、考え、たくさんの有意義な時間を共感し合えたのかもしれない。そんなマイナス思考しか考えることのできなかった私の思考を逆転したのは1人の少女だった。その子の名前は「FIHAUGA INIA。」ホームステイ先で出会った女の子だ。

私は彼女に萼の折り紙の折り方を教えてあげようとした。しかし、最近折っていなかったせいか、折り方を忘れてしまっていた。教えると言って、なかなか思い出せないでいる私に彼は、どこかつまらなそうな顔を見せ、持っていた折り紙を置いた。それから30分程経ったのだろうか。ようやく折り方を思い出したが、あれからかなりの時間が経過している。頭がパニックで、何を声かけて良いのかが分からなかった。私は恐る恐る「t e a c h」とだけ呟いた。そしたら彼女は、曇った表情1つ見せず、「早く教えてよ。待ちくたびれちゃったよ。」と言わんばかりに満面の笑みでこっちを向いた。こんなにも嬉しい瞬間は他にあったのだろうか。心が伝じ合えたかのような気がした。心を癒す程の最高の笑顔。私はこの時、英語が話せない自分を忘れていた。なぜなら、笑顔でこんなにも人の心を晴らし、伝じ合えると気づいたのだから。

## ■帰国報告 (p.1 グローバル人材フォーラムの続き)

池田さんはペルー北部のカハバンバで、米国のボランティアと連携して栄養教室や料理教室を開催。栄養普及に努めました。



### ○料理教室

村にある食材(小麦粉、卵、牛乳or水)を使って「蒸しパン」作り。ペルーには「蒸す」という調理法がなかったが、鍋とマグカップで工夫して完成!

食生活が米とトウモロコシに偏りがちで、動物性たんぱく質も少ない。栄養面で改善するための料理教室に火が必要なので、赤ちゃんとともに「薪」を背負って参加してくれた母親たちと一緒に料理を作った。

### ○活動のキーワードは「情報」

識字率が低く、読み書きの習慣がないため、情報収集源はラジオが主。せっかく料理教室を体験しても、記憶に定着させにくい。情報を正しく伝え、家に持ち帰って正しく活用できるように、ポスターやカード、パンフレットなど指導媒体を作成し、参加者に配布。「栄養教室に行けばもらえる!」と評判になった。

### ○活動を通して得たものは大きい

言葉の壁やのんびりした国民性、衛生面など困難も多かったが、語学習得やコミュニケーション能力の向上など得たもののほうが多い。現職参加させてくれた職場の方々の理解に感謝します。

(2009年2次隊 ペルー/栄養士 池田祐子氏)



## 《平成24年度 協力隊を支援するやまがた地球家族の会 事業報告》

期 日	事 業
5月26日	定例総会/事業・決算報告、事業計画、予算の承認、役員改選 帰国報告(ガーナ、キルギス)
6月18日	24年度1次隊 表敬訪問並びに壮行 — ドミニカ共和国、ウガンダ/2名
9月18日	24年度2次隊 表敬訪問並びに壮行 — モロッコ、エチオピア/2名
11月19日	グローバル人材育成とJICA ボランティアの活用を考えるフォーラム 庄内地区の企業並びに自治体関係者と意見交換 於:庄内町響ホール/36名
12月21日	24年度3次隊 表敬訪問並びに壮行 — バングラデシュ、スリランカ/2名
2月23日	ボランティア家族懇談会及び帰国報告会、国際協力エッセイコンテスト受賞者の作文朗読 隊員による帰国報告 於:大手門パルズ(山形市)/44名
3月18日	24年度4次隊 表敬訪問並びに壮行 — ペナン/1名

※ 5月26日—第10号機関紙発行、育てる会のカレンダーの作成並びに会員への送付

\* 表敬訪問・壮行は県庁にて

## 世界各地で活躍する協力隊員!

本県から現在派遣中の JICA ボランティアは 22 人で、全都道府県で 29 位。山形県の人口は約 116 万人で全国 35 位ですので、人口からみた派遣人数では健闘しています。

そのうち 14 人が女性。近年、大部分の都道府県で派遣者の過半数を女性が占めている状況です。

これまで派遣された人数は 390 人で 33 位。男性 226 人に対して、女性が 164 人。女性が追いつく日も遠くないかも知れません。

青年海外協力隊の生みの親と言われる「寒河江善秋」氏が山形県川西町出身であることをご存じでしょうか。その志に応えるべく、世界に羽ばたく若者たちを更に応援していきたいものです!

### ★山形県から派遣中のボランティア (H24.4.30 現在)

性別	派遣国	職種名	派遣期間	
			出発日	活動満了日
男	南アフリカ共和国	コンピュータ技術	2011/06/20	2013/06/19
女	カンボジア	小学校教諭	2011/06/20	2013/06/19
女	ニカラグア	リサイクルカー	2011/06/20	2013/06/19
男	バブアニューギニア	感染症対策	2011/06/22	2013/06/21
男	バブアニューギニア	理数科教師	2011/06/22	2013/06/21
女	中華人民共和国	日本語教師	2011/06/27	2013/06/26
女	モロッコ	助産師	2011/06/27	2013/06/26
男	ケニア	村落開発普及員	2011/09/28	2013/09/25
女	フィリピン	食品加工	2011/10/03	2013/10/02
女	ヨルダン	音楽	2012/01/10	2014/01/09
男	ベトナム	理学療法士	2012/01/10	2014/01/09
女	エクアドル	青少年活動	2012/03/22	2014/03/21
女	ホンジュラス	助産師	2012/03/27	2014/03/26
女	ブータン	小学校教諭	2012/06/27	2014/03/21
女	モロッコ	村落開発普及員	2012/09/25	2014/09/24
男	エチオピア	理数科教師	2012/10/01	2014/09/30
女	バングラデシュ	理数科教師	2013/01/08	2015/01/07
男	セネガル	野菜栽培	2013/01/09	2015/01/08
女	カンボジア	音楽	2013/01/10	2015/01/09
男	ルワンダ	村落開発普及員	2013/01/15	2015/01/14
女	ペナン	村落開発普及員	2013/03/27	2015/03/26
女	カンボジア	青少年活動	2012/09/27	2013/07/26
女	ドミニカ共和国	リサイクルカー	2012/06/28	2014/06/27
女	モロッコ	料理	2011/08/02	2013/08/01



## エッセイコンテスト表彰式 帰国報告会 ボランティア留守家族連絡会を開催！

2013年2月23日（土）、山形市の大手門パルズで開催されたエッセイコンテスト表彰式と帰国報告会、留守家族懇談会をレポートします。

### ◆国際協力エッセイコンテスト表彰式

2012年度【JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト】は「これからの日本、これからの世界～私たちができること」をテーマに募集されたもので、中学生の部 44,459 点、高校生の部 28,736 点、総数 75,662 点もの応募がありました。山形県内では7名が個人賞に、7校が学校賞に入賞。ちょうどこの日、東京で上位入賞者44名の表彰式があり、国際協力特別賞に輝いた山口大雅さん（東根工業高校2年）と今野澄香さん（山形一中1年）の二人も参加しました。その他の県内表彰は下記の通りです。



- ▼高校生の部＝
  - 東北支部長賞：廣谷玲奈（山本学園高3年）
  - 佳作：佐藤愛香（鶴岡北高1年）
  - 青年海外協力隊OB会長賞：山崎末稀（谷地高2年）
  - 学校賞：山本学園高、米沢商業高、新庄南高、鶴岡北高、谷地高、庄内農業高

- ▼中学生の部＝
  - 東北支部長賞：大沼広夢（山形六中2年）
  - 青年海外協力隊OB賞：酒井萌花（山形一中1年）
  - 学校賞：米沢四中

表彰式の後、それぞれ受賞作品を朗読発表しました。どの作品も自分自身が経験したこと、感じたことを出発点にして、世界で起きていることについて考察。未来に向かって前向きな考えを表明していて、頼もしい限りです！

### ◆JICA ボランティア帰国報告会

表彰式の後には、帰国したばかりの協力隊OB2名による《帰国報告会》。日本と環境も考え方も異なる国でどのように活動したか、その国での生活などを生き生きと報告してくれました。言葉に

よるコミュニケーションが不十分でも、お互いに心を通わせることができるという大切なことが伝わってきました。

#### ◎長南里佳さん＝ヨルダン / 幼児教育

女性が外で身体を動かすことは良くないというヨルダンの慣習のなかで、子どもと母親と一緒に参加できる運動会を企画。異なる宗教・文化にとまどいつつもそれらを尊重し、実現しました。その後、保護者や先生たちが長南さんのためにサプライズ・パーティーを開催。子ども達から、質素ながらも心のこもったプレゼントをもらって感激したそうです。

#### ◎碓真実さん＝ジブチ / 理数科教師

ジブチでは教室の不足に加えて、義務教育化による生徒数の増加で更に教育環境が悪化することが予想されていました。碓さんが理科実験の指導を行なったパルムレ中学校も、日本からの無償資金援助によって建設されました。



\*ジブチのパルムレ中学校 / 現地での碓さん

### ◆JICA ボランティア留守家族連絡会



午後からはJICAボランティアで派遣中の隊員のご家族にお集まり頂き、「留守家族懇談会」を開催。JICA職員や協力隊OBなどから説明を受け、お互いに情報交換、交流していただくことで、留守家族の不安を軽減しようという目的で毎年開催しています。留守家族の方々から活発にいろいろご質問を受けました。

(了)

## ラオス派遣：小林明子さん 世界遺産の街での活動！

鶴岡市出身の小林さんは鶴岡市立羽黒中学校からの現職参加。2011年4月から訓練を受け、同年6月から2013年3月までラオス・ルアンパバーン県の子供文化センターに勤務していました。



平成23年度1次隊  
派遣国：ラオス  
職種：青少年活動

2011年6月20日、その年の4月から始まった65日間の訓練を終えてラオスに赴任しました。私の配属先はルアンパバーン県子供文化センター。ルアンパバーンは言わずと知れた世界遺産の街。街全体が世界遺産として認定されているのです。風光明媚な景色はもちろん、信仰深い人々の気持ちでなりたっている街です。

そこで約2年間ラオスの子供たちと、そして、地元の人々を交流し、活動してきました。私の配属先は日本に研修で半年滞在したことがある所長をはじめ、他に3人のスタッフで運営されています。言語が違うにも関わらず最後まで楽しく過ごすことができたのは、所長が日本という国、日本人というものを知っていたからということが大きいです。帰国した今でもその感謝を忘れてい



↑ラオスの行事パーシー

### ★ブログ紹介【たった1度の人生だから・・・】

坂野雄大さん（平成21年度2次隊 / パプアニューギニア / 理数科教師）が、同期のパプア理数科教師隊員で作った数学テキストを普及させる活動などを綴った奮闘記。  
<http://ameblo.jp/nikunosakano/>

けないと思っています。私もまずは自分の地元を知ることから始めました。

ましてや子供達と接する配属先。よくわからない外国人から頭ごなしに教えられるのもいやですよ。最後まで教えるというよりは子供たちと一緒に活動しているような感じでしたが・・・そんな子供達からも、東日本大震災のことを聞かれました。「ツナミは見たことあるの?」「家族は大丈夫だったの?」東北人として、日本人として、現在の状況や東北人の芯の強さをしっかりと語ってきたつもりです。また、近所の人にも助けられました。大家さんが家族のように私を紹介してくれたこともあり、「ご飯食べる?」「日本の家族は遠くにいるから私がラオスの母だからね。」こんな言葉をかけてくれる人がいました。私が誰も知らない土地でゆつくりできたのはこの近所のみなさんのおかげです。

### ラオスの母・センさんと↓



日本語教室をお手伝い。お坊さんたちも熱心に↑

私達協力隊員が派遣される国は一般的に「途上国」と言われています。しかし、何が「途上」なのでしょう。これは私が2年間でよく考えたことです。私は同じ人間として、家族のような付き合いをさせていただきました。これからもその家族の付き合いは継続させていこうと思います。

### ■『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』 入会のご案内

【会費】 ●個人会員 = 3000円 ●家族会員 = 1000円 (個人会員の家族) ●学生会員 = 1000円 ●団体会員 = 10000円 (企業及び団体)

【会員特典】 JICA ボランティアの姿を通して、世界が見える!

「国際ボランティアマガジン 月刊《クロスロード》」を、年間購読料 5000円のところ、希望する会員には 2000円 の送付手数料のみで 1年間 12冊ご提供いたします。

☆お問い合わせ/ご入会のお申し込みは、当会事務局まで。

やまがた地球家族 VOL.11 平成25年6月1日発行 (第11号) 発行人/酒井忠久

発行/〒999-7725 山形県庄内町沢新田 151 富樫方 『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』事務局  
TEL&FAX) 0234-42-1458 (富樫) E-mail) info@chikyukazoku.net Website) <http://www.chikyukazoku.net/>